

# アジア文化コース



## アジア文化コースとは

アジアは昔から文化、言語、宗教などにおいて多様性に富んだ地域でした。人々の暮らしもそれぞれの地域の伝統に根ざすことで、豊かな生活を育んできました。しかし、いまアジアは大きく変化しています。近年のグローバルな文化交流によって西洋的な、さらには無国籍的な文化が広く浸透するなかで、人々は最先端のライフスタイルを楽しみ、モバイル端末を片手に近未来的な景観の街を闊歩しています。アジア文化コースは、このようなアジアの文化的ダイナミズムをテーマとする総合的なコースです。アジアにたいする深い理解と共感、現代の文化状況への鋭い感性、文化にアプローチするための専門的な知識などをもとにしながら、アジアの「いま」とらえていきます。

## 多和田先生の研究

文化人類学の立場から東南アジア地域研究、とくにマレーシアのイスラームを対象とした研究をおこなっています。グローバル化や国民国家体制、消費社会の進展等を特徴とする現代社会において、イスラームの実践がどのように変化するかについては、変化する（あるいは、変化しない）のかについて、理論的検討やフィールドワークを通して考えてきました。今後は、現代社会の「かたち」がイスラーム教徒の生き方やイスラームそのものにどんな影響を与えているのかについてとらえてみたいと思っています。ライフスタイルから景観まで、「かたち」が画一化、共通化した社会にあって、イスラームはいかにイスラームであるのか、そしてあり続けるのかについて、具体的に考えていきたいと思います。



教授 たわだ ひろし  
**多和田 裕司** 先生

## アジア文化コースを選んだ理由

私自身が中国、香港の帰国子女であることから、アジア文化に関心があります。幼い頃から香港で過ごし、幼い頃から香港で過ごすため、中国、香港文化や言語については理解がありますが、日本について知っていることが非常に限られています。アジア文化と日本文化とを比較する上で、私が知っているアジアと、コース内の仲間が知っている日本と、ディスカッションの中でお互いに得るものがあると思いました。

## アジア文化コースの魅力

アジア文化コースの魅力は新しく設けられたコースであることから、学生は皆手探り状態にあり、自由であるとも言えます。そのため、研究したい文化の分野が明確であれば、羽を伸ばして邁進することができると思っています。また、このコースの魅力は、「アジア文化」と言っても良いでしょう。アジア文化の類似している文化や歴史には、一言では言い表せない興味深さ、そして価値があると思います。

## 卒論テーマ例

- ・日中韓の近現代演劇のなかにみる女優の位置づけ
- ・東南アジアにおける教育と宗教
- ・大阪をテーマにした戯曲（演劇シナリオ）にみる多文化共生

## 面白いと思った専門科目

### 「科目名」アジア共生文化概論

この授業では多文化の共生について、主に民族と宗教、それに国家という観点から考えます。人々を結びつけるこれらの要素が、現代社会における共生と対立を生んでいます。この科目では、文化と社会の中で自分の立ち位置を、再確認することができます。



3年生 くぼた ゆうすけ  
**久保田 佑亮** さん

## アジア文化コースにとっての『とびら』とびら

「とびら」の先には素敵な世界や無限の可能性が待っています。そんな世界にいたるためには、まず「とびら」を越えなければなりません。ではどうやって。赤穂浪士のように力づくでぶち壊すのでしょうか。アリババみたいにかつそりと手に入れたゴマの呪文を使うのでしょうか。そんな力も才覚もない者は、意地悪な門番を前になにもできないまま最後は倒れるだけなのではないでしょうか。実家のネコは、リビングや寝室に入りたいときに、「とびら」の前で何かを訴えるようにじっとしています。そうしていると、家人がすぐに「とびら」を開けてくれるのです。「とびら」は自分だけで開ける必要はありません。「とびら」の向こうのアジアに出会ってみたい皆さん、まずは「とびら」の前まで来てください。そうすれば、きっとアジア文化コースの誰かが「とびら」を開けてくれるはずですよ。ただし、入りたいという強い思いがなければ、誰も「とびら」は開けてはくれません。（文・多和田先生）

